

まちあるきの注意点

※個人住宅や敷地には立ち入らないでください。

- は、石碑を表します。
- は、歴史の説明などが記されている標柱や説明板を表します。
- は、石柱を表します。
- は、保存樹や大きな木を表します。
- は、ワークショップに参加した学生さんのおすすめスポットです。

参考文献

- 秋田の今と昔
- 新秋田叢書(八)
- 秋田市の木と森
- 続・秋田市の木と森
- 秋田大百科事典
- 図説 久保田城下町の歴史
- 秋田市大辞典
- 三百藩家人名辞典 第一巻
- 秋田市の庚申信仰
- 佐竹家譜 上
- 秋田市旭川郷土史
- 秋田県神社名鑑
- 秋田市における地名の分類(下)
- 秋田・天徳寺史秋田のお寺 心のふる里
- 秋田市の史跡めぐり
- 秋田市の文化財
- 秋田市史 第六巻 考古資料編
- 秋田市外旭川郷土史 一語りつぐ外旭川のあゆみーふるさと秋田市
- 名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯庭)庭園保存管理計画書
- 近代化遺産 国有林森林鉄道全データ(東北編)
- 旭川歴史散歩

文化財イラストマップ 秋田市泉(五庵山)・手形地区編

おきたのまち再発見 ぐるっと文化財マップ 見て楽しい、歩いて楽しい



0 50 100 200m
※200mを歩くには約2.5分かかります。

北
西 東
南

手形地区の歴史と地名の由来について
手形の「形」は、「湯」を意味していたと言われています。赤沼・長沼・谷地・深田などの字名が、旧旭川の自然堤防の辺りにみられることから、湿地が沼地から得た地名と考えられます。初代藩主佐竹義宣は、家老たちに命じて手形村に町割を実施し、侍町としました。

手形からみでんについて
町名は搦田村からきています。由来は搦田の方角が久保田城の搦手(裏手)に位置することからと言われています。

五庵山の歴史と地名の由来
五庵山は古くから信仰の聖域で、多くの(寺坊)が営まれたことから、「高野山」の地名が生まれたと言われています。また、熊野山・高野山信仰により、御取精進(修行)が盛んであったことから、三根根の地名も生まれました。

泉について
泉は「湧き水」のことで、五庵山と前面の平地とが交わる辺りから、湧き水が見られたと言われています。農村地帯が広がっていた泉地区は、上流からいかにで流されてくる木材や薪炭などを役人が検収する重要な関所でした。泉で検収を終えた木材は、旭川と雄物川の合流点にある川口の材木置場まで運ばれました。

保戸野八丁について
隣接する旧泉村の小字で、天徳寺街道の八丁から命名されました。天徳寺から八町(約872m)離れている、という意味です。

手形休下町について
休下町の北端旭川の岸に藩主のお休み処と、その下に御休橋がありました。御休下町の名は、この御休に由来しています。

赤沼について
赤沼は、現在の秋田駅付近の長沼や手形(手湯)とともに沼沢地でしたが、江戸初期の正保元年(1644)から一帯は埋め立てられました。そして、沼が完全に姿を消したのは幕末の安政の頃でした。

このマップは、市民がまち歩きをして作成しました!



市民のみさんに地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらいたいと、文化財イラストマップを作成しました。マップ作成のためのワークショップでは、18人の市民のみさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したのやコメントなどを盛り込んであります。このマップを持ってまちを歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

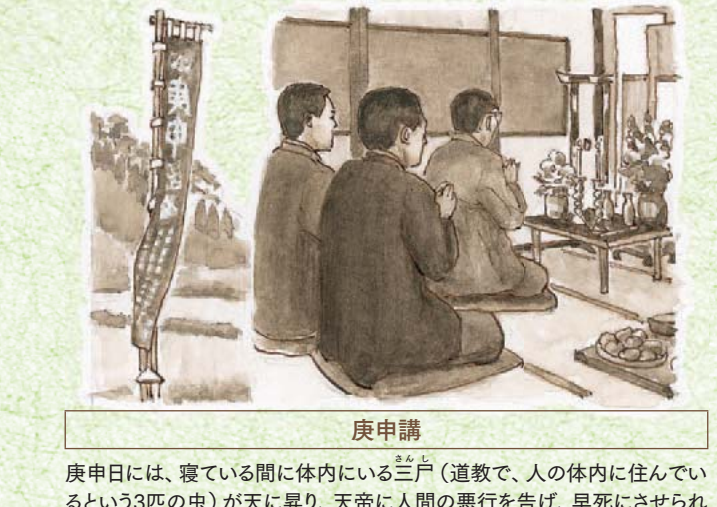
秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館…… ☎018-889-2461
秋田市手形字大沢28-2

秋田市観光案内所(秋田駅構内) …… ☎018-832-7941
(財)秋田観光コンベンション協会 …… ☎018-824-8686

編集・発行:秋田市教育委員会 文化振興室
秋田市山王二丁目1番53号 山王21ビル4階
電話番号 018-866-2246 FAX番号 018-866-2252

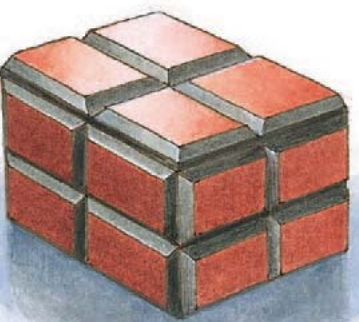
協力:半田和彦(市文化財保護審議会副委員長)
岸 茂男(久保田城址歴史案内ボランティアの会)
学生団体ATMUI!

印刷:秋田活版印刷株式会社
イラスト:小西 由紀子
発行日:平成27年3月



江戸のおもかげあれこれ

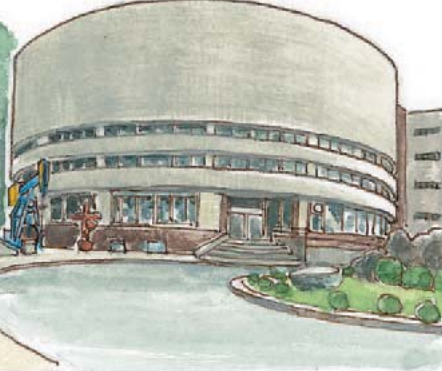
① 生駒塗り
漆工芸の一つ「生駒塗」は、朱塗りの鮮やかさとその柔らかい手触りといった特性を最大限に生かした工芸品です。東京美術学校で漆芸を学んだ生駒弘、親雄親子が秋田市に「生駒漆芸工房」を設立したのが始まります。もともと漆芸品は丈夫で渋いものとされていましたが、「生駒塗」は朱塗りの明るさとデザインの新鮮さ、美しさは全国的に知られ、一つの派として認められています。



④ 田中神明社
田中神明社の境内には若宮八幡宮と刻まれた石碑があり、かつて扁額にも若宮八幡宮と書かれていたそうですが、昭和になって火災により類焼したため詳しくは分かりません。もと川上治左兵衛という武家の氏神であったとも言います。川上氏は立派な武士で、人望が篤かったため、神明社に夫婦の木像が祀られていたとも言われています。例祭は5月1日です。



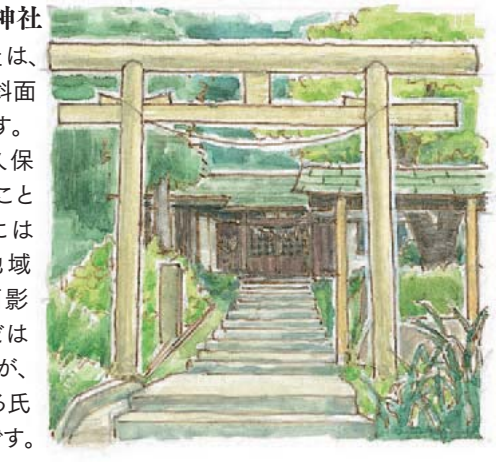
⑤ 秋田大学鉱業博物館
秋田大学鉱業博物館では、秋田大学の100年にわたる研究教育活動を集めた地質や鉱工業に関連した資料を展示・保管しています。さまざまな色と形の鉱物・鉱石、珍しい岩石や化石を見ながら、地球の歴史や資源の生成について学ぶことができます。また、鉱山で使われている道具や模型・CGを見たり動かしたりすることもできます。



⑥ 平田篤胤墓
平田篤胤は、江戸時代後期の国学者で、本居宣長とともに国学四大人の一人と呼ばれています。神道を原点とした日本古来の精神に帰ろうとする国学に強い関心を持ち、多数の著書を著しました。68歳で病没し、墓は自然石の墓石に「平田篤胤之奥墓」と刻まれ、秋田大学の裏手の小高い丘の上にひっそりと眠っています。



⑩ 若宮八幡神社
若宮八幡神社は、蛇野遺跡の南斜面に位置しています。このあたりは久保田城下に近いことから、藩政期には庭師が多い地域でした。その面影を残す建物などは残っていませんが、造園業に携わる氏子が多い地域です。



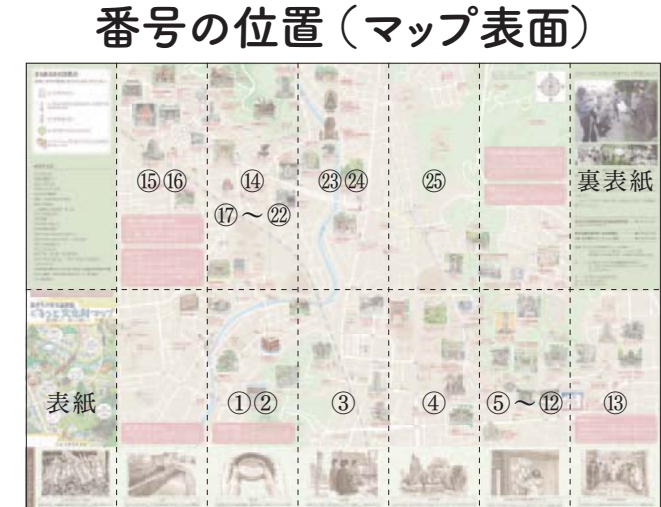
⑪ 本念寺
創建当時は手形野崎に建てられ、そのまま現地に移したと伝えられています。それ以来、火災や水害などの災禍に遭遇した記録がないので、現存する本堂はその当時のものと推定されます。境内の周囲がうっそうとした杉並木に囲まれているため、別名「杉山本念寺」と称されています。山号は「修行山」ですが、元々は「手形山」であり、音読みにして「修行山」とあてたそうです。境内の入り口に奉祀している三大地藏尊は、雲鏡あらかな地藏尊として燈火の絶えることがなく、山門横の観音堂は、久保田三十三観音霊場札打の第3番札所です。墓域には平田篤胤の生家の墓があります。参道の左側には、横綱を食したために非難された出家したという名山(四股名は磯城)の祠があります。



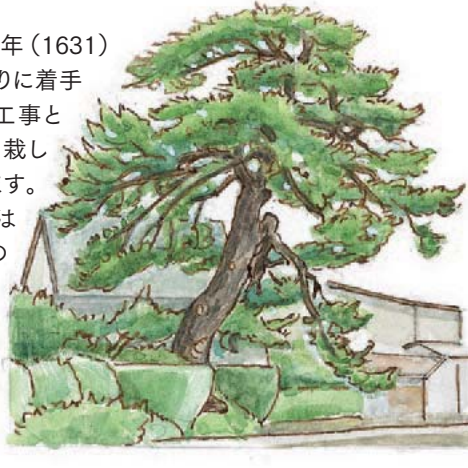
⑫ 柳沢遺跡
柳沢遺跡は、秋田大学の東側、標高約45mの手形山台地の南東側に位置しています。確認された遺構は竪穴住居跡8軒と土坑1基です。現在は草木が生い茂っています。6号住居跡は長さ15m、幅5mの長方形で規模が大きいため共同作業場や集会所などの施設と考えられます。



※解説文についての番号は、マップ表面のイラストについての番号に対応しています。



② 籠の松
佐竹氏が寛永8年(1631)に城下町の町割りに着手した際に、付帯工事として松並木を植栽したのと思われま。今では松並木は存在せず、「籠の松」とともに当時のしをしのばせる貴重な木となっています。



③ 仏光庵
当時、遠い菩提寺までお参りすることは困難であったため、各地の集落には小さいお堂や庵寺がありました。仏光庵もその一つです。内部に祀られていた多くの仏像は縁のあったお寺に戻されましたが、ご本尊の観音様は今もあります。



⑦ 正洞院の墓
正洞院は、初代秋田藩主佐竹義宣の夫人で、24歳の若さで亡くなりました。後年、義宣は寺を常陸国から現在地に移しましたが、明治維新後廢寺となり、現在は墓のみが残っています。



⑧ 太子神社
太子神社では、昔、子どもたちが堂内で遊んだり、縄をつけて神像を道路に放置したりしても、不思議と翌日にはもともとおり堂に鎮まっていたと言います。かつて、木彫りの太子像を神輿渡御としてかつぎ出し、市中を巡幸しましたが、この時、通町や大工町などの職人の多い町では、御利益を載こうとする人々により、神像が削りとられていったものだとされています。子どもを好む神様といわれ、職人たちにも信仰されてきました。通称てこさんとも呼ばれています。



⑨ 関信寺
関信寺には、慶長7年(1602)の国替で秋田入りをした、佐竹義宣の父・義重が眠っています。義重は仙北郡花館村で狩猟中に落馬し、それがもとで66歳の生涯を閉じたと言われています。境内には、義重のもか一族や重臣たちも眠っています。秋田三十三観音2番札所となっています。



⑬ 太平山三吉神社
秋田市のシンボルである太平山の頂上に奥宮(夏季のみ)、広面赤沼に里宮が鎮座します。通称はみよしさん・さんきんさん。北海道から福島の北日本各地、またブラジルサンパウロ三吉神社の分社があります。今を去る約1,300年前の天武天皇2年(673)5月、役の行者小角の創建と伝えられ、桓武天皇延暦20年(801)征夷大将軍坂上田村麻呂東夷征討の際、戦勝を祈して堂宇を建立、奉納された御鏡は神宝として今に伝えられます。



⑭ 天徳寺
天徳寺は、秋田藩主佐竹氏の菩提寺です。佐竹氏の国替えによって当初積山金照寺山の麓に建てられましたが、寛永元年(1624)に火災にあったため、翌年に現在地に移築されました。延宝4年(1676)に再び火災にあい、同5・6年にかけて、1万石の巨費を投じて再建されました。境内には本堂・書院・総門・山門のほか、藩政時代を偲ぶ佐竹家累代の墓所があります。江戸時代の曹洞宗寺院の伽藍配置を窺い知ることができます。



⑮ 佐竹家雲屋
佐竹家雲屋は、佐竹氏歴代の先祖を祀るためのもので、寛文12年(1672)に秋田藩3代藩主佐竹義純の時に完成しました。菩提寺天徳寺の本堂西側の一面にあります。周囲を囲まれた広い墓所に歴代藩主とその夫人の墓が並び、中央に御雲屋が建てられています。天徳寺伽藍の建物と一体となって、大名の菩提寺の姿をよとめていきます。



⑯ 天徳寺仁王像
天徳寺山門の右に阿形、左に吽形が一對となって安置され、秋田藩9代藩主佐竹義和の命によって寛政9年(1797)に完成しました。阿形・吽形ともに頭部を大きく強調した童子を思わせる体形で、忿怒の表情には迫力があり、胸を張った大きな身のこなしが巧みに表現されています。台座に「大仏師七条左京」の墨書銘が確認されており、作者は江戸時代後期に全国的に活躍した京仏師七条左京であることが分かっています。目力!



⑰ 中山青叢の墓
中山青叢は江戸時代中期の儒者で、寛政5年(1793)に藩校明徳館(のちの明徳館)の初代祭酒(館長)になりました。



⑱ 熊野神社
熊野神社は、大同元年(806)に白坂石近将監が秋田を訪れた際、同行した清水主水が吉野権現を祀ったことが始まりと言われています。小正月の札打ち願礼の第1番札所です。



⑲ 泉福院
泉福院は、江戸時代前期に五庵山の国替えと同時に、父義重の信仰者たちによって開かれた真言宗の寺院です。不動明王三尊立像はその本尊として祀られています。



⑳ 泉福院の不動明王三尊立像
宝冠を付け、智拳印を結び大日如来坐像で、異指定有形文化財に当たります。大日如来は密教の本尊で、その光明が遠く一切を照らすことから、遍照または大日と言います。寄木造で玉眼を入れ、漆箔と彩色を施しています。金剛製の宝冠や左肩から右腕にかけての糸帯の鍍金文様などの意匠と技術が優れています。また、光背は当初のものを塗り直しています。膝前部底面に「貞和五己年(1349)九月十八日」、胎内に梵字「ア・パン」(胎藏金剛 兩界大日)の墨書があり、南北朝時代の作品です。地元の方々に大切に祀られています。



買い物なら**秋田チケット**
金 プラチナ・ダイヤ 高価買い取りします!!
商品券、ギフト券、旅行券 各種金券!!
1枚から **高価買取**します。
お気軽にお立ち寄り下さい。

格安!! 秋田・東京・仙台・盛岡
JRこまちきっぷ
秋田チケットで賢くおトクに! **安心買い取り!!**
山王店 秋田駅前店 アルヴェ店
秋田市役所裏 広小路西秋田店となり 泉館センターアルヴェ1F
☎018-823-5959 ☎018-831-8500 ☎018-837-6116

本物の味。 やつと出会えた
ご膳者に最適な「極」シリーズもございます。
だいえんどろ(検索)
麗延堂 <http://www.daiendou.com>
(有)オーイーシー
TEL.018-824-6656 FAX.018-824-6650



稲庭うどん新時代
秋田県秋田市・井田産
稲庭 釜揚げうどん
食えて美人に。
秋田県秋田市山王1丁目3-16
TEL.018-868-6565

とんかつ 他 (千切りキャベツ・ソース付)
1枚から持帰りOK!
大人気 **ヒレカツサンド!**
◎米の娘ぶたのロースかつ弁当
◎とんかつ弁当◎ヒレロかつ弁当
◎ヒレかつ弁当◎のロースかつ弁当
◎エビフライ弁当・お好み弁当
営業時間
山王店(日曜定休) 外旭川店(火曜定休)
(平日) 基 AM11:00~PM 2:00 (ランチメニューあり)
夜 PM 5:00~PM10:00
(土曜日) AM11:00~PM10:00 (土・日曜) AM11:00~PM10:00
商品券・ギフト券使用可能
【外旭川店】秋田県秋田市外旭川八幡田1丁目1-36
TEL.018-868-6565
【山王店】秋田県秋田市山王1丁目3-16
TEL.018-866-6544



㉑ 泉福院の不動明王三尊立像
不動明王三尊立像は、右手に智剣、左手に鬘索を持ち、脇侍として右側に狛野童子、左側に制吒迦童子を従えています。平成4年の泉福院改築時および平成14年11月に実施された台座銘と光背銘の調査により、京仏師である大仏師院達法橋および長嶋外記の作で、宝永元年(1704)に湯沢佐竹南家7代義安が寄進したものであることが判明しました。地元の方々に大切に祀られています。



㉒ 金砂神社
金砂神社は、佐竹義宣の国替えと同時に、父義重の居城である六郷城内に勧請され、翌々年久保田城築城と共に寺町に遷座されました。その106年経った宝永7年(1710)に現在地に移転し、寺領100石を与えられました。祭典には、和洋装のお守りとして針が配られました。また、美容の神として崇敬されたため、紅やおしろいの顔布もあり、女性の参拝が多く、お嫁さん選びの祭典としても知られています。



㉓ 如斯亭庭園
如斯亭庭園は、元禄年間(1688~1704)に家臣が秋田藩3代藩主佐竹義純から与えられた土地に「得月店」と称する別荘を建てたのが最初で、藩主の鷹狩り際の休憩所として利用されていました。5代藩主佐竹義隆の時に本格的に庭園として整備され、9代藩主義和の時に回遊式庭園ができあがり、「如斯亭」と名付けられました。県内に残る数少ない江戸時代の庭園です。



㉔ 岩戸神社
岩戸神社の由縁は不詳ですが、秋田都市計画道路事業によって昭和58年11月に改築運営し、この時に、獣額を洗浄したところ、佛顔の額と判明しました。獣額はおおよそ180年以前(文化3年から同11年頃迄と推定)のもの、約130年以前(嘉永7年頃)のものが2枚あります。いずれも県内外の俳人たちの俳句です。通称からみて人大日堂と呼ばれ、例祭は4月28日となっています。



㉕ 白馬寺
白馬寺は、開創に二つの説があります。一説には、常陸国太田天神林にあった真言宗太平山常樂寺を、天徳寺開山幻室伊達が改宗し、経来山白馬寺とし天正元年(1573)に佐竹東家3代義久が菩提所とするため、天文3年(1534)に没した始祖政義を開基に勧請したとあります。また、天正元年に、始祖の政義が、天徳寺3世護宗守守(天正4年(1576)没)を勧請して開山したという説もあります。元禄年間に火災となり、現在の本堂は享保11年(1726)の再建です。寺宝に佐竹東家の肖像画、完成上堂法語、名僧墨跡、梵林の連座給などがあります。

